

令和3年度埼玉県英語指導方法改善事業

文部科学省委託「小・中・高等学校を通じた英語教育強化事業」

研究発表会



研究主題

自分の考えや思いを 主体的に伝え合う児童生徒の育成

～Try out活動を通じた

思考力・判断力・表現力の向上を目指して～

令和4年1月25日

神川町立青柳小学校

2月 8日

神川町立神川中学校

令和3年度埼玉県英語指導方法改善事業

文部科学省委託「小・中・高等学校を通じた英語教育強化事業」

研究発表会

1. 主題設定の理由

- 1 主題設定の理由
 - (1) 社会的な要請

平成29年告示 学習指導要領解説
外国語活動編及び外国語編

**「小学校からの学びを中学校段階へ
接続させる指導を行う」**

1 主題設定の理由

(2) 本町の児童生徒の実態 (1)

▶ 取組

■ ユニット学習 (学び合い活動)

⇒前向きに取り組んでいる。



▶ 課題

- 思いや考えを主体的に表現すること。
- 友達の考えを元に自分の考えを深めること。
- 県学調での英文の記述問題の正答率が低い。

1 主題設定の理由

(2) 本町の児童生徒の実態 (2)

▶ 考えられる原因

自分の思いや考えを持ち、英語で伝える**機会**の不足と、それを実行する**英語運用能力**の不足。

令和3年度埼玉県英語指導方法改善事業

文部科学省委託「小・中・高等学校を通じた英語教育強化事業」

研究発表会

2. 研究の仮説と手だて

2 研究の仮説と手だて (1)-① 仮説と手だて

▶ 仮説

Try out活動やその要素を取り入れた活動を授業の中に導入すれば、児童生徒の**思考力・判断力・表現力**を向上させることができるであろう。

2 研究の仮説と手だて (1)-② Try outとは

Try outの定義

コミュニケーションを図る目的・場面・状況に応じて、児童生徒が伝えたい内容を、**自分で既習事項の中から必要な英語表現を選んで**（即興的に）やり取りする言語活動。（東京家政大学 太田洋教授）

ポイント

- ◆ 教師が最初に英語表現を**指定しない**。
- ◆ **まず児童生徒が活動**し、上手く言えないことを**経験・共有**する。
- ◆ 必要な英語表現等を、活動の合間で指導する（**中間指導**）。

- 2 研究の仮説と手だて
- (2) 仮説に対する手だて

▶ 手だて 1

Small TalkにおいてTry outの導入

▶ 手だて 2

**Try outの要素を取り入れた言語活動
の実施**

令和3年度埼玉県英語指導方法改善事業

文部科学省委託「小・中・高等学校を通じた英語教育強化事業」

研究発表会

3. 研究の実践

3 研究の実践

(1)-① 手だて 1 (Small Talk) について

▶ Small TalkにTry outを導入

- 最初に英語表現や型（会話のパターン等）を**指定しない**。

例) × 「want toを使って話そう！」と指示、

× A: Did you go anywhere? B: I went to ~.と指定

- **トピックのみ**与え、児童生徒が会話する。

→ **上手く言えないことを経験、指導の必要性を実感**

- 活動の合間で必要な指導（**中間指導**）をする。

⇒ 良い例とエラー・解決策の共有、

「共有することでみんな学ぶ」意識を持つ

3 研究の実践

(1)-② 手だて 1 (Small Talk) について

▶ 小中でSmall Talkの流れを共通化

① 指導者 (JTE) の話

② ALTとJTEの会話 (モデルの提示)

③ 指導者 (JTE) と児童生徒のやり取り

④ 児童生徒同士のやり取り

⑤ 中間指導

※④、⑤を繰り返す

⑥ 代表生徒の発表

⑦ フィードバック

3 研究の実践

(1)-③ 手だて1 (Small Talk) の中間指導について (1)

▶ 中間指導の方法例

- 「言えそうにないこと」やエラーを予測しておく。
- 困ったり詰まったりしている児童生徒に、直接「何と言いたいのか」を聞く。
- 「言いたかったけど言えなかったこと」を全体の場で共有する。

▶ 留意点

- 教師が「教える」のではなく、**児童生徒から「引き出す」**。
- 会話を継続・発展するための**内容面の指導**と、伝えたいことを言うための**言語面の指導**を、バランスよく行う。

3 研究の実践

(2) 手だて2 (Try out活動) について (1)

▶ Try outの要素をその他の活動にも応用

手だて1と同様、以下のポイントを様々な活動に取り入れた。

ポイント

- ◆ 教師が最初に英語表現を指定しない。
- ◆ まず児童生徒が活動し、上手く言えないことを経験・共有する。
- ◆ 必要な英語表現等を、活動の合間で指導する（中間指導）。

3 研究の実践

(3) 授業以外での取組について

- ◆ 6月～12月に、月に一度の**公開授業**
- ◆ 定期的な**授業の録画**と検証
- ◆ 冬休みに**模擬授業・指導案検討会**
- ◆ 太田洋教授との**zoom会議**を4回



令和3年度埼玉県英語指導方法改善事業

文部科学省委託「小・中・高等学校を通じた英語教育強化事業」

研究発表会

4. 成果と課題

(児童生徒アンケートより)

4 成果と課題（児童生徒アンケートより）

(1)-① 小学校6年生アンケート結果

▶ 1学期と比べて英語が得意になったか

	12月
はい、 どちらかという と思う	91%

▶ Small Talkで気持ちや考えが伝わったか

	7月	12月
はい、 どちらかという と思う	68%	80%

- 4 成果と課題（児童生徒アンケートより）
(1)-② 小学校6年生アンケートからの考察

▶ 成果

- 自分の気持ちや考えを伝える技能が身についてきている。

▶ 課題

- 低位児童の苦手意識が減るよう、支援の工夫が必要。

4 成果と課題（児童生徒アンケートより） (2)-① 中学校2年生アンケート結果

▶ 自信がなくても英語をもっと使いたいか

	7月	12月
はい、 どちらかという と思う	88%	91%

▶ Small Talkで積極的に会話を続けようとしたか

	7月	12月
はい、 どちらかという と思う	91%	95%

4 成果と課題（児童生徒アンケートより） (2)-② 中学校2年生アンケートからの考察

▶ 成果

- 自分から英語を使って**コミュニケーションを図ろうとする態度**が身についてきている。

▶ 課題

- Try outによって、生徒が感じる**難しさや負担感**を減らす工夫が必要。

4 成果と課題（児童生徒アンケートより）

(3)-① 中学校3年生アンケート結果

▶ 自分でオリジナルの英文を作ること好きか

	7月	12月
はい、 どちらかという と思う	46%	63%

▶ 場面や状況に合わせて活動することは好きか

	7月	12月
はい、 どちらかという と思う	51%	69%

4 成果と課題（児童生徒アンケートより）
(3)-② 中学校3年生アンケートからの考察

▶ 成果

- Try outを通して、**オリジナルの文を作る表現力が身についてきている。**

▶ 課題

- 文法はわかるが場面に合う英文が作れないことや、場面に合う日本文はわかるが英文にできないことがある。**言語面と内容面のバランス**をとる指導の工夫が必要。

令和3年度埼玉県英語指導方法改善事業

文部科学省委託「小・中・高等学校を通じた英語教育強化事業」

研究発表会

5. 成果と課題 (授業者の振り返り)

5 成果と課題（授業者の振り返り）

(1) 小学校担当 稲葉教諭

▶ 6月・9月

- ◆ Try outはわかったが、**中学との連携**は難しそう。
- ◆ **児童の声を拾う**→**クラスで共有**ができていない。
- ◆ **英語表現を指定**してしまい、Try outにならなかった。

▶ 11月・12月

- ◆ 児童が「上手く言えなかったこと」を**全体で共有**できた。
- ◆ 教師が児童との**やり取りを楽しめる**ようになってきた。
- ◆ 児童が好きなこと等を話す時、既習語彙で**理由等も付け加えられる**ようになってきた。

5 成果と課題（授業者の振り返り）

(2)-① 中学校2年生担当 奥山教諭

▶ 6月・9月

- ◆ **臨機応変な対応**をしないといけない中間指導が難しい。
- ◆ 「教え込まず」生徒から「**引き出す**」のに時間がかかる。

▶ 11月・12月

- ◆ 生徒の**会話が活発**になり、**50秒～1分**は継続できる。
- ◆ 教師が生徒の話を全体で広げられた。生徒同士でもトピックから**話題を広げて**話ができるようになってきた。
- ◆ **中間指導**で指導しきれなかったり、逆にし過ぎて時間がかかったりすることがある。

5 成果と課題（授業者の振り返り）

(3)-① 中学校3年生担当 佐瀬教諭

▶ 6月・9月

- ◆ **Try out活動**が生徒には難しいと感じさせてしまった。
- ◆ 「生徒が言えなかったこと」を**中間指導**できなかつた。

▶ 11月・12月

- ◆ **言語面と内容面の指導**のバランスが難しい。
- ◆ 生徒が**既習事項**や**友達を参考にした表現**を使うようになってきた。
- ◆ **中間指導**を意識することで、**上手く見取ることができ、生徒の実態に合った指導**ができるようになった。

令和3年度埼玉県英語指導方法改善事業

文部科学省委託「小・中・高等学校を通じた英語教育強化事業」

研究発表会

6. 本研究のまとめ

6 本研究のまとめ

▶ 成果

- 児童生徒は、授業を**楽しみ主体的に学んだり英語で表現したりする**ようになってきている。
- 教員もSmall Talkを**楽しみ**、児童生徒の**実態に合った中間指導**に慣れてきている。

▶ 課題

- 英語への**苦手意識**を持つ児童生徒がいる。
- 児童生徒・活動の**見取り方や中間指導**が上手くないことがある。

6 本研究のまとめ

▶ 今後について

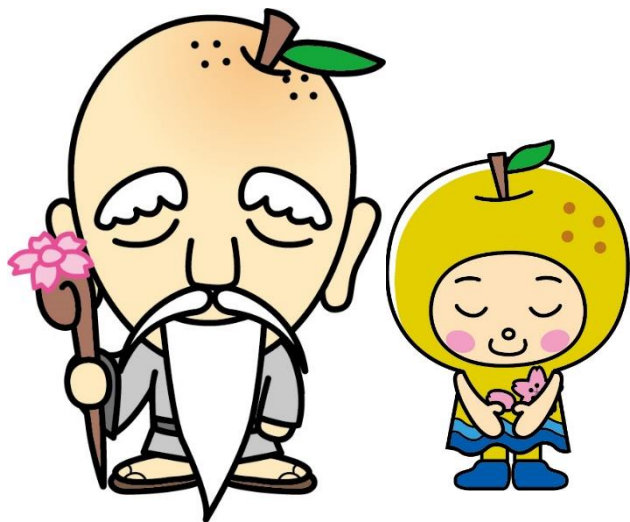
- ✓ Try outを様々な活動へ**応用**していく。
- ✓ 児童生徒の感じる**負担感・抵抗感**を減らす工夫を行う。
- ✓ 活動の**見取り方**を改善し、**適切で質の高い中間指導**を行う。

令和3年度埼玉県英語指導方法改善事業

文部科学省委託「小・中・高等学校を通じた英語教育強化事業」

研究発表会

ご清聴ありがとうございました



令和4年1月25日

2月 8日

神川町立青柳小学校

神川町立神川中学校